

ごとう通信

第 123 号

平成 23 年 3 月 1 日

今年は乾燥した東京の冬ですね。

もちろん寒い日や雪などもありましたけれど。まあ、毎年言っていることですが、一年のうち二月は一番嫌いな月なので二十八日で去っていただけるのは本当にありがたいです。きっと三月も寒い日があったり、雪が降ったりする日もあるでしょう。それでも緑が戻ってきて、神田川沿いに桜のカーテンが出来ると思うとワクワクします。

さて、多くの人に聞かれましたのでご報告します。先月末の東京マラソン、もちろん抽選もれでした！でも無関係だったわけではなく、医療ボランティア（ランニングドクター）



として参加してきました。日比谷公園前（10K地点）をスタートしてゴールまでゆっくり走りながらランナーたちの身体に異常があれば応急処置をしたり、本部に連絡をするという役割でした。

当日は東京マラソンには珍しく晴天。スタートの号砲とともに三万五千人が都庁をスタートしている時、僕たちは：日比谷公会堂の客席で寝そべっていました、のんびりと。僕と同じランニングドクターは全部で四十人。全員赤いスタッフ帽子をかぶ

り、「医師」と書いたビブス（ベストのようなもの）を付けていました。時差スタートで走っていく中で僕は一番手。九時五十分の日比谷をスタートし、十キロを一時間のペースで走りしました。

初めて走った東京マラソンのコース、と言うよりは、東京のと真ん中は本当に壮観でした。日比谷から品川、銀座、浅草、そして有明、ビッグサイトまで。特に浅草はプライベートでもほとんど行ったことがなかったのに、正面に雷門が見えた時、「きれいだなあ」と思いました。また、ごく一部の交通規制道路を除き、すごい応援の波。僕も応援では何度か参加しましたが、コースから応援を見るのは初めてだったのでかなり興奮しました。知り合いを探して応援するだけでなく、ランナー全員声援を送